

満宮の英と燃ゆる壁を固結に戦慄を感とる彼等は併合の障壁となるべからざる事を懼れ満宮に永遠に生じ不安の致すに縛せんとする陰謀が、いかにくも馬脚を表してゐるべきでないか。

今も兄弟満宮は男らしくも致つてゐる。

かゝる急迫

吾が市電自社の

用能し得ぬ行

少親念的態

を欲張能流

右決議す

昭和二年十

支給して下さい。
 以上は王電全従業員の切實なる希望でありましたので代表者を以て會社に嘆願しました處會社はこの嘆願に對して返事もせずしかもその代表者拾名に對して何等の理由を示さずして去る十二月一日突然會社に呼びつけ退却を命ぜられた。つた處が職員の間で騒動を申し渡したのであります。
 私等はこの理由のない不當裁断に對して會社に交渉に参りますと又々代表者六名に對して出勤停止を申渡したのであります。

轉じて居ります。一方更にこの不當解雇の取消方を去る十二月三日會社に嘆願しました處會社は十二月六日その返事をする然し一度誠首したものには誰れが何んと云つても使用しない。
 公共事業だとか親切本位に乘客を考慮しろとか世間の人は云ふが世間は廣い王電は營利會社だ。乘客に親切本位にすれば経費もかかる設備費も要るのだ、一々そんな希望は入れないと言つて居るので

しかし私等は會社の従業員ではあ
 東京電燈會社と東京電力會社の電力供給の競争の渦中に捲きこまれ毎日重役共が暗闘して居りますその結果、電燈の暗いこと、危険設備の多い事、電燈料金の高い事設備不完全から来る毎日の停電等に對しても飽くまで沿線住民諸君の共進利害の立場から固く事を言ふものであります茲に真相を住民諸君に發表すると共に私達従業員の体度を公正な批判に訴へ併せて沿線住民諸君の絶大な應援を仰ぐ次第であります。

▼沿線住民諸に訴ふ▲

王子電鐵爭議團

啓事第三〇九一號

昭和二年十二月九日



警視總監 宮田光雄

内務大臣 鈴木喜三郎殿
 社會局長 官殿
 大阪神奈川兵庫各府縣知事殿

王子電氣軌道株式會社勞働爭議ニ関スル件(第四段)

要旨

爭議因御八款願事項ヲ拒絶セラル、ヤ報告批判憲法會等ヲ開カシテ審議結果、
 而款額ヲ為スコトニ態度決然セリ
 又現實派ニ屬スル一部爭議團員ハ別個ハ教書ヲ提出シ内容一部ヲ認容ラ得之ヲバクテ
 折切ラント一般組合員ニ對シテ組合員ノ大多數ハ之ニ反對シ現實派月盟一派ヲ解任スルニ
 トセリ

2.12.12
 1312